Ⅳ　受入れ時の学級での配慮について

１ 異なる文化をもった児童生徒に、担任自身がまず関心をもつ

自分に関心をもってもらうことは、一番嬉しいことです。また、担任の肯定的な受入れ姿勢は、学級の子供たちにもプラスの影響をもたらします。

＜例＞

・編入児童生徒の母語による歓迎の言葉を掲示し、歓迎メッセージを伝える。
・教室に、児童生徒の滞在国・出身国を扱った図書や会話集、辞書等を置く。
・よく使う挨拶の言葉や教室内にあるものの名前を、ひらがなと母語の両方で表示する。
・特別教室等に、児童生徒の母語で書いた教室名プレートを設置する。

２ 名前は、母語の発音を尊重する

できる限り、母語の発音を尊重しましょう。姓と名の順序についても、母国で呼ばれていた順序を尊重しましょう。

３ 友達づくりに配慮する

友達ができれば、学校生活への適応や、日本語の上達も早いものです。編入当初は、言葉の問題で自分からは友達がつくりにくいので、教師の支援が必要です。言葉が通じなくても、遊びを通して、子供同士の心を和ませ、つなぐことができます。編入児童生徒が､自分から遊びに入れない場合はきっかけをつくってあげましょう。クラスの友達の名前を覚えることも大切です。早く覚えられるように工夫をしてください。

＜例＞

・名前を覚えるためのゲームをする。
・机に全児童生徒の名前カード（その子が読める文字で書いたもの）を貼る。
・配り物等、先生の手伝いをさせる。など

※休み時間など学校生活のケアをしてくれる児童生徒は固定化しない方がよいでしょう。

４ 座席に配慮する

帰国・来日直後は、環境の変化に伴い精神的な負担も大きいものです。少しでも、児童生徒の不安を和らげることができるように、声かけやサポートがしやすい場所にするなど配慮しましょう。

５ 学校からのお知らせプリントにふりがなをふる

漢字はよく分からなくても、ひらがな・カタカナ・ローマ字は読める保護者もいます。お知らせのプリントにはできるだけ、ふりがなを付けましょう。また、日常会話ができても、「話し言葉」と「書き言葉」の違いで、文面をよく理解できない保護者がいることも意識しておきましょう。特に、健康安全に関するものや重要なものについては、赤で〇を付ける、母語で「重要」と書く、電話連絡をする、翻訳アプリ等を用いて翻訳した文書を配布するなどの配慮も必要です。

６ 保護者とのコミュニケーションを大切にする

手紙等では、伝わりにくいことも、直接会って話せば、よく分かってもらえます。

特に、トラブル等の解決を急ぐ場合は、早急に会って話し合いたいものです。その場合は、事実をきちんと伝えると同時に、解決のためにするべきことを率直に伝えましょう。必要な場合には、通訳をお願いしたり翻訳アプリを用いたりして、じっくり話し合いましょう。

7 存在感をもたせる工夫をする

授業の中で、母語で何と言うかを紹介したり、母国のやり方（計算等）を発表する場を設定したりすることにより、授業に参加でき、自信につながります。必要に応じ、保護者等に協力をお願いしましょう。

＜例＞

・母国の代表的な料理を紹介する。
・母国の歌を歌ったり、リコーダー等で合奏したりする。
・母国での体験や保護者から聞いたこと等を発表する。

8 母語で話したり、書いたりする機会を大切にする

母語で話したり、書いたりすることによって、児童生徒のストレスが解消されることがあります。日本語が話せるようになっても、文章が書けるようになるまではかなりの時間が必要です。

9 指示や説明の言葉は、ゆっくり、はっきり、短い言葉で話す

単文で、「です」「ます」を使います。実物や絵、図、身振り等での説明も効果的です。